

平成 24 年 3 月 31 日

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2012 年4月30日】

団体名 自立援助ホーム あいこう



▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

自立援助ホーム
働いて資格に挑戦しよう あいこう プロジェクト

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

今日も、義務教育終了後から二十歳までの青少年が、社会的な諸要因により、ホームに、無銭で飛び込んで来ますが、次代の日本を背負うべき前途有望、無限の可能性を秘めている青少年の一部が、こうした極悪な現状に置かれていることは社会正義に反します。こうした青少年たちに衣食住を提供し、明日への確実な希望を持たせるために、就労・進学・資格習得等をさせるための援助を仰いでいます。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

ホームに職員と寮生が共に生活をしながら、一定期間入所職員と寮生が話し合い、就労・資格技術習得等しながら自立資金を蓄え、アパートや会社寮に居住して、自立するための活動であるが、そのためには高校・運転免許証等を資格修得すれば、寮生には新たなステップにも挑戦できるし、経済的な基盤の補強にもなり、社会生活がより安定し強固にもなると思うので、今後も施設資金の投入により、入所児童には強かに推進していきたいと思っています。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

当施設の青少年に短期間に数十万円の資格修得費を捻出しないといっても、高校定時制や技術見習い等の者にはなかなか大変であることは理解しているので、真如苑「Shinjo プロジェクト」やその他の助成により目標額まで達成できない者にも、資格習得費の大部分を助成する方法を採用した。これにより資格習得が容易になり社会的に認知され、自信につながり、経済自立基盤が強固になり、自信と安心感をもって社会に自立している。こうした青少年を多く輩出した。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

私は、以前ある施設にお手伝いして、若年層の利用者に共通点としてあることに気づいたことがある。それは、高校・専門学校・大学等の教育機関を中退者が多いことと運転免許証・調理師等の社会的な資格がないために、会社にはなかなか採用されないし、採用されても臨時雇用が多かったように記憶している。従って自立し真更正したくとも経済基盤が安定しないため簡単には自立が困難である。こうした観点からも当施設を利用する青少年には、歯をくいしばって頑張り、資格や技術を若いうちに習得し、経済基盤を強固にして社会を構成する一拠点になるようにしてほしい。それにより真如苑「Shinjo プロジェクト」は生かされるのであるし、ぜひ精神を活かしてほしい。

6. 参考資料 参考資料 ・特になし